市議会だより おが

No.93
2026
令和８年11月１日
発行

７月臨時会
９月定例会



「複合交流施設のある町並み」イメージイラスト
※あくまでイメージであり、建築物の構成や建設地等に影響を及ぼすものではありません。

９月定例会の動き

８月
- 26日　招集告示
　　議会運営委員会

９月
- ２日　本会議（※表決）
　　（議案上程）
- ４日　本会議（一般質問）
　　議会改革調査特別委員会
- ７日　先進地視察調査
- ８日　本会議（一般質問）
　　議会運営委員会
- ９日　本会議（議案質疑）
　　予算特別委員会
- 11日　決算特別委員会

９月
- 15日　常任委員会・分科会
- 16日　常任委員会・分科会
- 28日　予算特別委員会
　　議会運営委員会
　　本会議（表決）

※公営企業会計決算

記事内容

７月臨時会・９月定例会から …… Ｐ２～Ｐ３
議案質疑 …… Ｐ３
決算特別委員会 …… Ｐ４～Ｐ５
一般質問 …… Ｐ６～Ｐ９
議会報告会 …… Ｐ９
予算特別委員会・常任委員会・討論・表決 … Ｐ10～Ｐ11
編集後記等 …… Ｐ12

男鹿市 OGA CITY
男鹿市ホームページでは創刊号からの「おが市議会だより」をご覧になれます。

ちいき本棚
無料アプリ「SideBooks」で「おが市議会だより」がご覧になれます。

マチイロ
無料アプリ「マチイロ」で「おが市議会だより」を配信しています。

男鹿市議会だより
No.93　R 8.11.1

「複合交流施設」整備に向け一歩前進！
基本計画策定費1,600万円含む一般会計補正予算
～起立採決の結果、賛成多数で可決～

9月定例会

●複合交流施設整備事業について

今年3月に策定した「基本構想」に基づき、施設整備に向けて施設の機能や規模、概算事業費、整備手法、管理運営方針等を具体的に整理した「基本計画」を策定するため、「複合交流施設整備基本計画策定業務費」として1600万円の補正予算案が上程されました。

議会としては、6月定例会における建設地の表明以降、所管の委員会協議会や議会全員協議会を経て、建設地選定のプロセスを検証するとともに、整備に伴う中長期的な財政見通しを求めるなど、多角的かつ慎重に議論を重ねてきました。

また、図書館を核とした複合交流施設を「男鹿駅周辺広場駐車場」へ整備するといった当局案に一定の理解を示す上でも非常に重要な意味合いを持つことから、議会としても慎重に審議に臨みました。

本定例会における審議では、一般質問や予算特別委員会、所管の総務委員会で活発な議論が交わされたほか、有志による議員間討議が行われ、課題を洗い出すとともに、論点を整理するなど、理解の共有が図られました。

予算特別委員会では、「施設建設地」や「市民ニーズ」、「導入機能」のほか、「建築計画」や「概算事業費」、「民間活力導入の可能性」に至るまで、様々な内容をただしました。

また、所管の総務委員会では「財政状況を踏まえた将来への投資の考え方」について質疑があり、当局から「財政状況が厳しいからといって、このまま地域の衰退を座して待つわけにはいかない。こうした局面であるからこそ将来への投資が必要であり、『選択と集中』の観点で、本市が抱える課題解決と市民ニーズを踏まえた投資を行うといった判断に至ったところである」との答弁がありました。

定例会最終日の予算特別委員会では、市長に対する総括質疑が行われ、「市政懇談会等で説明責任を果たし、民意を反映させた上で基本計画に臨むべき」「男鹿駅周辺広場駐車場が優位だという根拠を数値で表せないか」「市全域の既存施設を有効活用し、必要な機能のみ男鹿駅周辺に整備するといった考えはないか」などの質疑や意見がありました。

午後から開かれた本会議では反対・賛成の討論がそれぞれ行われ、起立採決の結果、賛成多数で可決しました。

今後の全体計画として、令和9年度までに「基本計画」が策定され、令和10年度に「基本設計」、令和11年度に「実施設計」、令和12年度からの「工事着手」を目指すとしています。基本計画で具体化される施設規模や導入機能、概算工事費、整備手法など、議会において、懸念されている課題について、一定の時間をかけて慎重に協議を続けてまいります。

●大潟村への水道水供給について

大潟村における潟水期等の水不足を想定した緊急時の供給とし、野石交差点付近から大潟村へ至るまで、大潟村の負担により緊急時用連絡管を新たに整備するとの方針が示されました。

なお、若美浄水場における余力水量を踏まえ、供給水量は一日最大2200立方メートルとし、供給単価は当市の1立方メートル当たりの給水原価に消費税を加えた金額とした協議を進めるとしています。

所管の産業建設委員会では、少子高齢化や人口減少に伴う給水人口・給水量が年々減少傾向にある中、将来を見据えた新たな需要を掘り起こしていくことは必要不可欠との期待が示されたほか、持続可能な供給体制の構築を求める声が多数ありました。

現在、大潟村は連絡管整備に係る国庫補助事業の拡充について国へ要望活動を行っており、この動向等に注視しつつ、引き続き協定締結に向けて協議を進めるとしています。

●風力発電事業の対応状況について

本年4月に発生した船越地区の風力発電所のブレード折損事故について、国の審議会にて事業者から、事故の原因や再発防止策に関し最終報告がなされ、現在停止中の4基の再稼働に向けた準備を順次進める旨、報告がありました。

また、産業建設委員会では、男鹿中から船川地区における風力発電事業計画の状況が報告され、景観への配慮や地域環境との調和のほか、地域への丁寧な説明と地域からの意見を踏まえた必要な対応を求めました。

議会としては、秋田市新屋浜の事故をはじめ、船越・野石地区の事故を踏まえ、継続的に議論を交わしてきていますが、安全に関する技術基準の不断の見直しや緊急時の情報共有の徹底など、国において実行ある対策がなされるよう注視していきます。

9月定例会

●消防団の設置等に関する条例の一部改正について

質疑　団員の定員を「820人」から「685人」とした積算の概要とは。

答　消防団を取り巻く社会環境の変化や消防・防災体制の高度化を踏まえ団員の定員の適正化を図るものであるが、「部・班」の人数をそれぞれ定め、それらを積み上げた結果685人としたものである。

質疑　現状の団員数が定員を超過し、辞めなければならない団員が出ることにはならないか。

答　改正による定員超過は発生しない。

質疑　「機能別消防団員」も含まれているのか。

答　新たな定員の685人に含まれる。

男鹿市議会だより
No.93　R 8.11.1

7月臨時会 / 9月定例会

7月臨時会は7月31日に招集され、各公営企業会計決算案（みなと市民病院事業会計・企業局事業会計）を継続審査としました。

9月定例会は9月2日に招集され、9月28日までの27日間の会期で開かれました。初日には、7月臨時会で継続審査としていた各公営企業会計決算案を全会一致で認定しました。

また、一般会計や各特別会計の決算案のほか、条例改正案や一般会計補正予算案など12議案が市長から提案されたほか、環境省がクマ撃退スプレーの性能に係る推奨要件を公表したことを受け、クマ撃退スプレーを速やかに調達するための経費を盛り込んだ一般会計補正予算案が会期中に追加提案され、審議の結果、全ての議案を認定・可決としました。

さらに、最終日に追加提案された人権擁護委員に係る人事案件2件をそれぞれ異義なしとし閉会しました。

可決した主な議案

9月定例会

〈令和7年度決算認定〉

- みなと市民病院「上水道」「ガス」「下水道」事業会計決算
- 一般会計歳入歳出決算
- 国民健康保険「診療所」「介護保険」「後期高齢者医療」特別会計歳入歳出決算

〈条例〉

- 消防団の設置等に関する条例の一部改正
  ◇消防団を取り巻く社会環境の変化及び消防・防災体制の高度化を踏まえ、団員の定員の適正化を図るもの。
- 印鑑条例の一部改正
  ◇出入国管理及び難民認定法等の一部改正に伴い、個人番号カード等を利用して行う印鑑登録証明書の申請について、特定在留カード及び特定特別永住者証明書の利用も可能とするほか、所要の改正を行うもの。
- 保育園条例の一部改正
  ◇教育・保育効果の向上を図るため、北浦保育園を船川こども園へ統合するもの。

ほか2件

〈予算〉

- 一般会計補正予算（第3号）
  ◇総合計画の重点戦略に基づく事業として、複合交流施設整備に関連する経費のほか、男鹿線全線開通110周年を記念したイベントの実施やなまはげ立像の劣化等の点検調査に要する経費、ツキノワグマの被害防止対策として実施隊員の出動報償や誘引樹木伐採補助金の増額に要する経費などを措置したもので、歳入歳出それぞれ4285万円を追加するもの。
- みなと市民病院事業会計補正予算（第1号）
  ◇病院給食業務に係る債務負担行為の設定を行うもの。
- 一般会計補正予算（第4号）
  ◇環境省が令和8年8月25日に「クマ撃退スプレーの性能に係る推奨要件」を公表したことを受け、捕獲関係者や市民の安全対策に万全を期すため、推奨要件に適合するクマ撃退スプレーを速やかに調達するための経費を措置したもので、歳入歳出それぞれ44万円を追加するもの。

〈その他〉

- 人権擁護委員の推薦
  ・中田　博道（松木沢）
  ・薄田　節子（五里合）

〈陳情〉

- 地域社会に貢献するシルバー人材センター決意と支援の要望
  ◇センターの安定的な運営が可能となるよう各種支援を要望するもの。

公営企業会計

決算特別委員会

7月臨時会では、令和7年度みなと市民病院事業会計・企業局事業会計（上下水道、ガス）決算案について審査するため、議会選出監査委員を除く議員15人で構成する決算特別委員会（佐々木克広委員長、船木一人副委員長）を設置・付託し、継続審査としました。

翌週開催された委員会では、審査の結果、いずれも全会一致で認定しました。委員会で質疑のあった中から主なものを取り上げ、その要旨を掲載しました。

厳しさを増す経営環境と持続可能な運営への挑戦！

公営企業会計決算「認定」

市民の医療とライフラインを守るために

▼企業会計の決算状況

会計名	総収益	総費用	差　引
病院事業	25億635万円	26億9,191万円	△1億8,556万円
上水道事業	6億1,676万円	6億4,767万円	△3,091万円
ガス事業	5億3,681万円	5億8,287万円	△4,606万円
下水道事業	10億6,833万円	8億8,471万円	1億8,362万円

※消費税抜きの金額となっています。
※原則、単位未満は四捨五入しています。

◎病院事業会計

質疑　経営強化プランの目標値と実績がかけ離れている。実情、プランに沿った病院経営がなされているのか。そのように評価しているのか。また、今後プラン変更や修正を行っていく考えはあるのか。

答　経営強化プランは、総務省のガイドラインに基づき、令和6年3月に策定した5年間の計画である。公立病院の経営強化ガイドラインでは、一般会計からの所定の繰り出しを行い、経常黒字となる経常収支比率100パーセントを早期に達成・維持することで、持続可能な経営を実現する必要があるとされている。令和7年度の経常収支比率は、昨年度より5・8ポイント改善したが目標値からは4・9ポイント下回る結果となった。このプランは令和5年度に策定したものであり、その後の急激な人件費の高騰や物価の上昇などを反映する前のプランであったため、目標値と実績に乖離が生じている。3月に計画を改定し、令和8・9年度の目標値は現実に沿ったものに見直している。実績については毎年公表しており、数値に大きな差が生じた場合は、その都度見直しを図っていく。

質疑　数値目標等は経営陣を含めて病院内でどの程度共有されているのか。共有されているにもかかわらず厳しい結果となっているのか。

答　経営状況の数値は、毎月の幹部会議で共有しているが、このプランの最終的な結果は共有していなかったことから、今後は幹部会議の場で共有していく。また、このプランのほかに、現在は資金不足を解消し資金を借りるため、新たに「経営改善実行計画」を策定している。計画には複数の数値目標があり、全ての数値を共有していくことは難しい面もあるが、今後出てくる数値については共有していきたいと考えている。

◎企業局事業会計（上水道）

質疑　一定の借入れをしながら老朽管の整備を進めるなど、前倒しで現状の計画を推し進めた場合、整備費用や有収率の改善にどうつながるのか。具体的な積算はしているか。

答　現状、水道管路更新計画に基づき、重要給水施設配水管事業など国の補助事業を活用し基幹管路を更新しているが、事業費には国の補助事業を充てられている。近年は交付率が低下しており、昨年度は約45パーセント、今年度は重要給水施設において、要望額に程遠い約15パーセントという内示率となっている。本市に限らず、多くの自治体において計画的に事業を進めるためには国の支援が必要不可欠であり、そのため今後は、要望額の補助金が配分されるよう、県を通じて強く国へ働きかけをしていきたいと考えている。

また、上水道施設については、劣化状況や優先度等を見極めながら計画的な更新を進めているが、今後、人口減少に伴う給水量の減少や工事費等のコスト上昇が予想されるため、今年度見直しを進めている「経営戦略」の中で、施設のダウンサイジングも含めて事業量を精査していく。

一般会計
各特別会計

決算特別委員会

9月定例会では、令和7年度一般会計・各特別会計（国保・診療所・介護・後期高齢）決算案について審査するため、議会選出監査委員を除く議員15人で構成する決算特別委員会（進藤優子委員長、猿田真副委員長）を設置・付託しました。

委員会では市当局からの補足説明と監査委員からの総括意見を受けた後に審査を行い、いずれも全会一致で認定しました。委員会で質疑のあった中から主なものを取り上げ、その要旨を掲載しました。

人口減少社会を前提としたこれからの市政とまちづくり

一般・各特別会計決算「認定」

課題解決に総力で立ち向かうことを期待！

▼一般・特別会計の決算状況

会計名	総収益	総費用	差　引
一　般	184億4,320万円	179億8,949万円	4億5,371万円
国民健康保険	33億771万円	32億6,619万円	4,152万円
診　療　所	2,071万円	1,846万円	225万円
介護保険（保険事業勘定）	50億7,111万円	49億4,487万円	1億2,624万円
介護保険（介護サービス事業勘定）	537万円	537万円	－
後期高齢者医療	5億1,400万円	5億436万円	964万円

※原則、単位未満は四捨五入しています。

◎一般会計

質疑　国の予算編成において、基本的には年間の所要額を当初予算で措置するという考えが打ち出されているが、本市にはどのような影響が想定されるのか。

答　本市をはじめ自治体は単年度会計が基本であり、予算査定では年間所要額を十分精査した上で、当初予算において必要な財源を確保する考えである。ただし、社会情勢の変化等、緊急度に応じて補正予算や専決処分を講ずるなど、行政が停滞することのないよう努めていく。

質疑　金利の上昇によって市の財政負担が大きくなる中、今後の見通しをどう捉えているか。また、飲食料品に係る消費税減税を見据えた対応は。

答　令和7年度末の市債残高は約132億8500万円となっている。市町村合併した当時には利率が5パーセントから6パーセントほどの起債が多くを占めていたが、低金利時代に入り繰上償還や低利資金の借換えなどを進め、現在は3パーセント以内の利率に抑えられている。過疎債等の利率は上昇傾向にあるが、将来の金利上昇を見据えたシミュレーションにより財政運営をしているため、公債費の償還に伴う大きな財政的影響はないと考えている。

また、食品に関する時限的な減税による自治体への影響は、国から地方特例交付金等による手当てが想定されているが、引き続き情報収集に努めていく。

◎特別会計（介護保険）

質疑　第10期男鹿市介護保険事業計画・高齢者福祉計画の策定に際し、在宅訪問や民生児童委員の在り方を含め、現段階でどのように対応していく考えなのか。また、介護保険料の引下げなどを今後検討する考えはないのか。

答　現在、介護人材の不足に加え、北部地区ではサービスの事業所自体少なく、遠方からの訪問に頼るなど非常に厳しい状況になっており、ケアマネージャーからもサービスの維持を危惧する声もある。

こうした中、守るべき訪問サービスのほか、特に通所サービスを維持するため、あらゆる手段で訪問・通所サービスの確保に努めるほか、国の動向を見極めながら特定地域居宅サービス等における柔軟な報酬対応の導入も検討していく。

また、介護人材不足の中、ショートステイに多くの介護職が従事している現状もあり、今後は、実際に必要とされる入所サービスの見極めを行いながら、事業者との話合いを通じて事業転換なども模索していきたいと考えている。

自立支援の推進による給付費の適正化を図り、第1号被保険者の保険料負担の軽減に努める。

なお、介護保険財政調整基金の約4億7900万円については、第9期事業計画開始時より増加しているが、将来的に65歳以上の人口が減少していくことなどを踏まえ、長期的なシミュレーションを行い慎重に検討していく。

一般質問



安田健次郎 議員
（日本共産党）

特定利用空港・港湾への「船川港の指定」について

質 国から県に対し、県内4か所の空港と港湾の指定に向けた説明・打診がなされ、その回答を求められている。国会の論戦からは、自衛隊等が優先使用する懸念が払拭されておらず、船川港が軍事利用されることがあってはならない。断固拒否すべきであり、市民への説明会等を実施すべきと考えるが、市長の見解を求める。

答 あくまで民生利用を主体としつつ、大規模災害などの緊急時に自衛隊や海上保安庁が柔軟かつ迅速に利用できるよう、国と管理者において連絡・調整体制の構築、強化を図るものであり、地域の安全・安心の確保や災害対応力の向上につながるものとして前向きに捉えている。

　市が単独で説明主体となる予定はないが、市民に不安や疑念が生じぬよう、県に対し制度内容や今後の運用について、情報の提供と周知を求めていく。

漁業振興対策について

質 研究機関や対策室等の設置、漁業者等との定期的な意見交換、養殖事業の強化・拡充など、さらなる対策強化が必要でないか。

答 県水産振興センターから親身に対応いただいており、独自に研究機関を設置するには無理がある。定期的な会議や直接現場に出向くことで漁業者等と意見交換を行っている。新たな収入源となり得る養殖事業は、引き続き生育状況をきめ細かく確認し、最適な養殖方法を模索していく。

一人暮らしや高齢者への支援について

質 住宅が全焼し、焼け跡から一人暮らし高齢者の遺体が発見された。地域住民同士の支え合いは町内会の課題の一つにもなっているが、早急にさらなる支援体制を強化する必要があるのではないか。

答 家庭訪問や集い等の開催を通じ社会的孤立の防止を図っているほか、各種生活支援に取り組むとともにボランティア団体の立ち上げを促している。また、地区の希望者同士がバスで買物する取組を実証的に行っているほか、改正社会福祉法による身寄りのない高齢者を包括的に支援する仕組みなど、実効性のある支援体制が構築されるよう取り組んでいく。



太田　穣 議員
（新　星　会）

観光消費額の拡大に向けた男鹿総合観光案内所の機能強化について

質 観光客数が減少する一方、観光推定消費額が増加した要因をどう分析しているか。市内周遊や観光消費につなぐ拠点として総合観光案内所をどう位置づけ、利用実態を踏まえた機能強化や温水洗浄便座整備をどう考えているか。

答 宿泊客の増加や団体旅行の回復、宿泊施設のリニューアルが観光消費額の増加につながったと分析している。今後は宿泊を軸に滞在時間の延伸を図るため、体験型観光などを充実させる。総合観光案内所は観光客を最初に迎える玄関口として重要な拠点施設であり、増改築等の考えはないが、展示・休憩設備の改善や温水洗浄便座への更新を計画的に進める。

ホテル開業を船川の飲食・買物・商業の再生へつなげる取組について

質 ホテル開業による宿泊需要を船川の飲食や買物につなげるため、市は事業者へどのような働きかけを行っているのか。宿泊者の需要把握、オガーレの夜間営業、空き店舗の活用、店舗情報の発信をどう進めるのか。

答 商工会等と連携し市内外の事業者へ出店を働きかけ、周辺飲食店には営業時間延長を依頼している。オガーレでは夜間営業を始め、船川地区では空き店舗利用補助金を活用し2件の居酒屋等が開業した。夜間飲食需要を調査し、伴走支援や飲食店マップによる情報発信で新たな出店につなげる。

人口減少・高齢化下における介護サービス提供体制の確保について

質 施設サービスやショートステイの利用割合、介護給付費が高い背景をどう分析しているのか。また、訪問介護の受入状況や地域差をどこまで把握しているのか。第10期介護保険事業計画に現場の声をどう反映し、必要な介護サービスを維持していくのか。

答 訪問・通所介護の利用は低い一方、ショートステイや施設サービスの利用が高く、介護給付費は国・県平均を上回る。訪問介護では北部地区等への移動負担が増し、新規受入れが困難な事例が出ている。次期計画では事業者や市民の意見を反映し、自立支援介護を盛り込み、在宅支援、人材確保、地域の支え合い等を強化する。

男鹿市議会だより
No.93　R 8.11.1



吉田　洋平 議員
（男鹿未来の会）

複合交流施設の必要性と将来を見据えた事業の方向性について

質 基本計画策定において、建設候補地の変更、既存施設の活用等の比較検証の実施は。

答 市全体への波及効果など様々な要素を十分に吟味し、男鹿駅周辺広場の市民駐車場へ新設することが最も望ましいと判断した。建設候補地の変更、既存施設の活用等を再度検討することは考えていない。

質 公共施設総量の縮減に向けた考えとの整合性は。

答 本市の公共建築物の延べ床面積は、同規模の自治体と比較して2倍近い数値であり、公共施設総量の縮減は必須である。市民の幸福度が損なわれないよう可能な限り配慮しながら、スマートシュリンクを基本に効率的な施設マネジメントを実践していく。

質 将来の財政負担と施設の持続性に対する見通しは。

答 本施設の建設により市債借入残高が増え、償還のピークが到来した場合でも、実質公債費比率や将来負担比率は健全な水準を維持し、硬直化は回避できる見通しである。一般財源の持ち出しを最小限に抑え、過大な財政負担とならないような事業スキームを構築していく。

子どもたちの学習・スポーツ環境の充実について

質 屋外競技の冬季間における練習や活動を支える屋内運動施設の必要性に対する認識は。

答 新たな屋内運動施設の整備については幾つかの課題や懸念があり、慎重な検討が必要と考える。当面は既存の体育館や閉校となった体育館の有効活用を図りながら、子どもたちの冬場の活動環境の維持・工夫に努めていきたい。

質 現在検討されている複合交流施設に、学習・スポーツ機能を取り入れる考えは。

答 日常的に本に親しめる空間は必要であるものの、学校の授業の延長として活用できる専用の学習スペースの利用ニーズは決して高くないと捉えている。

　また、スポーツ機能についても、総合体育館をはじめとする既存の屋内スポーツ施設や社会体育施設が一定数整備されていることから、複合交流施設の基本計画に盛り込む考えはない。



猿田　真 議員
（新　星　会）

人生100年時代！生きる喜びサポート事業「男鹿市高齢者自立支援推進協議会」の設置について

質 高齢者の自立支援に取り組む体制を整備するため、今年度、市の呼びかけで協議会が設置されたが、多くの市内事業者からは、協議会への参加呼びかけに加え、その在り方に対し困惑している様子をうかがい知れた。

　多忙を極める事業者からは、参画要請や事業内容に疑問の声が上がっており、負担とさせないためにも協議会の在り方を見直すべきと考えるが、今後の対応や見解は。

答 設立に至った背景として、本市の介護を「お世話型」から「自立支援型」へ転換を図ることで、介護給付費の削減と高齢者の社会参加を促すことが急務であるという事情があるが、少なくとも自立支援に取り組むこと自体に反対する意見はなかった。本協議会を白紙に戻す考えはないが、これまで以上に、より丁寧な運営を心がけていく。

通行を妨げる道路沿線の草刈りや支障木の除伐について

質 日常利用する旧道や狭い道路において、樹木の枝打ちや草刈りの要望はこれまでもあったと考えられるが、大型ダンプや配送トラックのほか、観光バスの走行時に車のすれ違いが困難となっている場所が年々増加している。

　今後も適切な道路管理が求められるが、市民に対し、何か目に見える分かりやすい方法で道路管理の状況や今後の管理計画等を伝える工夫を模索する考えはあるか。

答 道路管理に関しては改善の効果が出ているものの、なお26件の改善要望があり、舗装修繕や交通安全施設等を含めた道路全体では208件の要望が寄せられている。引き続き努力を重ねていく。

　その取組の情報発信は、県からの情報を含め、草刈りの実施時期や対象路線を市HPに掲載し、市民が一元的に確認できる環境を整備しているが、議員指摘の「情報の可視化」は市民の満足度向上の観点から大事な取組であるため、SNSやテレビ回覧板も含めて、よりタイムリーで分かりやすい提供の在り方を研究していく。

【その他の質問】

●津波災害警戒区域への新たな公共施設整備計画について

一般質問



進藤　優子 議員
（公　明　党）

大規模災害を踏まえた防災対策について

質 災害時における応援職員の受入体制は。

答 大規模災害時における人的受援体制の整備は、迅速な住民支援と行政機能の維持を図る上で重要であり、外部からの支援を遅滞なく住民支援へと直結させ、いかなる事態においても行政機能を維持できるよう、実効性のある体制を構築していく。

質 災害時の避難所として母子専用避難所を整備すべきでは。

答 一般避難所や福祉避難所の中に母子優先スペースを確保し、きめ細かな支援体制を整えることで、妊産婦や乳幼児のニーズに対応した避難所運営を行うことは可能と考えている。母子保健事業を基盤に、今後も実効性のある避難支援の充実に努めていく。

質 大規模地震等による電気火災の防止・軽減策の一環として、感震ブレーカー設置に対する助成制度を創設すべきと考えるが。

答 簡易なタイプは３０００円程度、分電盤タイプは数万円で設置可能であり、基本的には家屋所有者に設置していただきたいと考えている。一方、住宅の耐震化については、所有者の経済的負担が極めて大きく、本市独自に補助制度を設けて支援している。個人の資力だけでは対応が難しく、命に直結する取組に対する支援を優先・基本にしていることから、まずは普及啓発に努めていく。

質 指定避難所体育館へのエアコン設置の考え方は。

答 断熱改修工事に億単位の費用を要する。小・中学校の再編計画に基づく統廃合の動向や本市の財政事情等を勘案しながら導入を見極めていきたい。

高齢者肺炎球菌ワクチンについて

質 肺炎の重症化予防、医療費抑制の観点から、満66歳以上の高齢者を対象に、肺炎球菌結合型ワクチン（ＰＣＶ20）の助成事業を実施すべきでは。

答 法定の定期接種が、対象年齢や接種回数など様々な議論を踏まえた上で決定された最も効果的で持続可能な対応であると考えており、対象となる65歳の方々への周知と接種勧奨にしっかりと取り組むとともに、引き続き、国における制度の動向を注視していく。



船木　正博 議員
（新　星　会）

男鹿市複合交流施設の整備と建設候補地について

質 基本構想で示した3候補地を改めて比較検討するのか。男鹿工業高校跡地と男鹿駅周辺広場駐車場に関して、利便性・交通・防災・将来性等をどう評価したのか。市民アンケートを行うのであれば、建設地も市民の意見を聞いた上で決定すべきではないか。

答 3候補地を敷地規模、土地所有、周辺環境、日常的な利便性、交通アクセス、周辺施設との連携、防災面等から多角的に比較検討し、男鹿駅周辺広場駐車場を選定した。男鹿工業高校跡地は県有地で取得費用や相応の手続が必要で、既存建物の解体にも10億から20億円程度が見込まれる。一方、選定地は市有地で取得費用等が不要であり、鉄道駅や市庁舎、病院、道の駅等に近く、施設整備の効果が市全体で最も高まる立地にある。

今後策定する基本計画で建設地を再検討する考えはなく、選定地への建設を前提に進める。

質 各候補地の災害リスクの比較結果を市民に公表する考えはあるか。大きな財政負担を伴う施設であり、客観的なデータや市民意見を踏まえ慎重に決定すべきだ。

答 船川エリアは浸水リスクへの対応に留意が必要だが、緊急避難場所の確保、避難経路や情報伝達手段の整備、避難訓練等により利用者の安全を十分に確保できると考える。基本計画では建設地を再検討するのではなく、施設の機能や日常的な活用方法、にぎわいへの結びつきなど、市民の意見を伺いながら丁寧に検討を進める。

市保有戸建て住宅の適正な管理と有効活用について

質 草刈りや清掃などの維持管理状況はどう対応しているのか。売却までの管理に加え、売却できなかった場合の対応や、移住・定住対策への活用の考えはあるか。

答 5月から9月まで月2回以上巡回し、年間2回の草刈りを実施している。今回売却する旧市営住宅3棟も草刈りを行っており、巡回頻度を増やすなど適切な管理に努める。

購入希望者がいない場合は再募集や民間事業者への販売も検討する。市保有住宅を人口減少対策や移住・定住対策の貴重な資産として今後も積極的に活用していく。

男鹿国定公園を活用した滞在型観光について



船木　一人 議員
（明　政　会）

八望台の宿泊施設計画について

質 八望台に「宿舎」が位置づけられたが、宿泊施設の事業化に向けて、現在どこまで具体的に進んでいるのか。

答 民間事業者から宿泊施設の事業展開の提案があり計画が変更されたが、現時点で具体的な計画の説明はなく、法令や必要な手続を確認しながら検討を継続している状況と伺っている。

観光ビジョンの目標達成について

質 「宿泊客数15万人、観光推定消費額１３０億円」という目標を、具体的にどのような施策で実現していく考えなのか。

答 まずは宿泊の稼働を高め、観光客の滞在時間の延伸を図り、地域内での消費につなげていくことが必要と考えている。宿泊施設の高付加価値化やサービスの向上を図るほか、冬季誘客の強化により年間を通して稼働を高めていく。

また、滞在時間の充実には既存の観光資源の磨き上げやコンテンツの充実が求められるが、宿泊や自然体験、アウトドア、飲食など、地域に根差した魅力的なコンテンツの主体となる民間プレイヤーの存在が必要不可欠であり、全国展開しているアウトドア事業者や宿泊事業者等への営業活動を積極的に行ってきた。

引き続きこうした取組を継続しながら、本市の潜在的な可能性を積極的にアピールし、本市に関心を寄せる事業者からの投資の呼び込みに努めていく。

ふるさと納税を地域経済につなげる仕組みについて

寄附金の実質的な財源について

質 寄附受入額から返礼品や送料などの経費を差し引いた後、実質的に市の施策へ活用できる財源はどの程度なのか。

答 令和７年度の実績では、寄附受入額６億６７６０万円から各種経費を差し引いた３億２６７７万円となっている。

市内事業者への経済効果について

質 市内の返礼品提供事業者など、実際にどの程度のお金が地域に還元されているのか。

答 令和７年度の実績では、返礼品の提供事業者など市内66事業者に対し６４６１万円が支払われている。

議会報告会開催

●多くのご意見ありがとうございました

主な質疑・意見・要望等

【戸　賀】

●公共施設等総合管理計画では北部地区の公共施設が順次縮小される予定となっている。市の財政事情は理解するが、いずれも公平かつ公正な行政サービスに努めていただきたい。

【北　浦】

●高齢者世帯等の間口除雪について、さらなる支援の拡充を検討していただきたい。

【男鹿中】

●ごみ処理広域化推進事業を進めるにあたり、収集場所の変更、料金の値上げなどがないよう、十分に配慮していただきたい。

【椿】

●ゴジラ岩の場所が分からず帰る人がいる。目につきやすい場所へ案内看板を設置できないのか。

【船　川】

●船川北公民館の廃止に伴い田中地区の公民館使用を紹介され、活動団体が直接町内会長へ使用時の連絡など対応するよう求められている。行政が仲介役となり対応できないか。

【脇　本】

●複合交流施設について、専門家の意見も取り入れながら検討を進めていただきたい。

【船　越】

●みなと市民病院の維持・経営方針の見解は。

【五里合】

●大規模災害時の水の供給体制はどのように確保されるのか。また、敷地内の水道管等の破損に備え、自己負担軽減制度の導入を検討していただきたい。

【若　美】

●一人暮らしの高齢者が住み慣れた地域で生活を維持していくことが重要であるが、プライバシーの観点から町内会等では踏み込んだ支援が難しく、対応に苦慮している。地域の一員として安心し生活を継続できるような支援策を講じていただきたい。

▶「市ＨＰ」で「報告書」や「要望・提言等への回答」を公開しています。

予算特別委員会

全議員で構成する予算特別委員会（船木一人委員長、安田健次郎副委員長）で、付託された一般会計補正予算等について審査し、いずれも原案のとおり、可決すべきものと決しました。

委員会で質疑のあった中から主なものを取り上げ、その要旨を掲載しました。

複合交流施設整備事業について

質疑 図書館と屋内こども広場の併設について、静かに過ごしたい層と自由に活動したい層など、多様な利用者の共存をどう考えているのか。

答 八郎潟町の「はちパル」のような建物の端と端への機能配置やゾーニングなど、様々工夫する余地がある。こうした視点を基本計画にしっかり反映させていく。

質疑 利用者の満足度を高めるための工夫は考えているか。

答 実際に利用する市民の方々が主体的に関わっていただくことが満足度の向上につながるものと考えている。

様々な場面で市民要望を伺う一方で、機能・財政面など真に必要なものを見極めながら、よりよい施設にしていく。

質疑 敷地や駐車場の制限、イベント時の手狭感への不安がある中で、船川エリア全体における再開発や駐車場整備、空き地の有効活用を一体的に進めるべきと考える。それら構想は持ち合わせているのか。

答 「男鹿駅周辺広場駐車場」敷地は2487平方メートルとなっており、仮に10000平方メートルの2階建てを整備した場合、駐車台数は41台ほど確保できると見込んでいる。今後精査が必要ではあるものの、通常の使用には十分対応できるものと認識している。

また、周辺敷地の活用や臨機応変な対応により十分やりくりできると考えている。入込ピーク時などの最大需要に合わせた整備ではなく、身の丈に合った施設づくりを目指していく。

なお、大規模な再開発やグランドデザインの作り直しは想定していないが、今ある既存資源や施設を結びつけ、男鹿駅周辺の将来イメージを提示できるよう検討を重ねていく。


▲「複合交流施設」建設予定地

みなと市民病院給食業務の債務負担行為について

質疑 変更した理由と見込まれる効果とは。

答 受託事業者の撤退に伴う契約満了を迎えるにあたり、新たに3年間で総額1億98040万円の債務負担行為を設定し、運営コストの最適化と食事サービスの質の向上を図るため、民間事業者から幅広に業務提案を募ることとした。

質疑 事業者選定において患者満足度をどのような基準で評価するのか。

答 プロポーザル審査では、提案内容に加え、実際に調理された食事サンプルの評価を実施するほか、契約後も給食委員会等へ事業者が参加し、患者の評価や改善点を共有・協議し、継続的なサービスの向上に努めることとしている。

委員会・分科会の動き

各常任委員会・分科会は、付託議案等と所管の予算案を審査しました。質疑のあった主な事項は、次のとおりです。

総務

●複合交流施設整備事業について

質疑 施設整備に対する財源や将来への投資の考え方は。

答 基本計画の策定に国・県の直接的支援はないが、今後の立地適正化計画の策定等を経て、設計業務や建設工事には国の補助金や起債等の活用を見込んでいる。

質疑 基本計画のスケジュールは。

答 10月から事業者の公募を開始し、11月にプロポーザル方式で審査会を実施した後、契約締結したい考えである。策定業務期間は令和9年12月頃までと見込んでいる。

質疑 さらなる建設費の高騰に鑑み、整備内容の調整が生じる可能性もある。基本の考えを大切にしながら進めなければ、中途半端な施設となる懸念もあるが。

答 図書館を核とした複合交流施設という基本の下、周辺施設の活用も含めて、予算と市民満足度のバランスを図りながら、しっかりと基本計画を策定していく。

●酒づくりを起点とした地場産業成長プランについて

質疑 市のメリットとは。

答 国から様々な支援が受けられるほか、日本酒特区の道が開けることが期待される。また、酒づくりを目指す若者の移住、観光の付加価値向上、地域農業の振興、空き家等の解消などの効果が期待される。

教育厚生

●全国学力・学習状況調査の結果について

質疑 ICTの普及による「考える力や判断力」への影響を懸念している。タブレット学習一辺倒でなく、「じっくり考える力や書くこと」の重要性を見直すべきと考えるが、今後どう対応していくのか。

答 依然として一斉画一的な授業が多く見受けられる。こうした授業スタイルでは主体的な学びが生まれにくいため、思考力や表現力が育たず、知識の定着にも影響を及ぼす。

特に中学校でその傾向が見受けられ、入学後の成績低下の一因となっている。小学校では子ども同士の確かな関係づくりが授業の成否に直結するため、授業改善と学級経営の双方に力を入れるよう指導している。各校の授業視察を行い、その改善策に関しさらに校長と協議を重ねていく。

ICTについては、効果的な場面での活用を研究・研修する段階へと移行している。手で書いて繰り返し覚えるアナログのよさを見直す一方で、ICTの特徴である「意見の即時共有」といった機能を生かし、効果的な学びへとつなげる実践も進んでいる。学習場面に応じたデジタルとアナログの適切な使い分けについて、引き続き指導・助言を重ねていく。

産業建設

●鳥獣被害防止対策事業における誘引樹木伐採補助金について

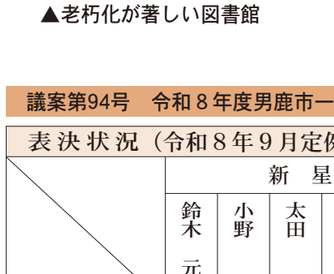
質疑 あえてクマを誘引する樹木を残しおびき寄せ、駆除する方策もあり得るのではないか。

答 前提として、県の管理計画において本市は全域が防除・排除地域に位置づけられており、侵入したクマは全て排除する方針が示されている。

クマを誘引するエリアを設定するということは、ある面ではバッファゾーンを設定しクマとの共存を目指すといった、誤った認識にもつながりかねず、県の管理計画の下、様々な点で県に配慮いただいている状況においては、やはり難しいと考える。

●JA秋田なまはげ梨選果場の現地視察調査を実施！

概要 国・県、市の助成を受けて導入した「梨選果ライン」の視察調査を行い、産地の未来を支える最新の選果技術を学びました。


▲梨選果場の現地視察

議案第94号に対する反対討論　小野　肇　議員

5月25日開催の議会全員協議会では慎重に検討するとしていたが、僅か2週間半で建設地を選定したことは拙速であり、大きな不信感を抱いた。市民からは建設地が決定されるまでのプロセスに疑問の声が上がっており、当局は今後予定されている市政懇談会で説明を尽くすべきである。

民意こそ政の基本であり、現時点では民意が反映されたとは言えない。将来予算計上とは言えない。将来に禍根を残すおそれもあり、反対するものである。

議案第94号に対する賛成討論　佐々木克広　議員

以前から老朽化が指摘されていた船川地区にある図書館の整備については、長年の課題であり念願でもある。

この基本計画策定関連予算については、議会でも様々な議論があったところであるが、まずは基本計画で具体化される施設規模や導入機能、概算工事費、整備手法などを基に、さらなる議論・協議をして、進めていくためにも、迅速に予算化して対応すべきが妥当と考え、賛成するものである。


▲老朽化が著しい図書館

議案第94号に対する反対討論　猿田　真　議員

建設予定地は津波災害警戒区域であり、基準水位が5メートルから10メートル未満で2階の屋根以上の浸水が想定されている。また、地球温暖化に伴う海面上昇や高潮、頻発化する自然災害も念頭に置き建設地を見定めなければならない。後世に生きる世代の命の安全性を担保するならば、海抜の低いエリアへの公共施設の建設は絶対に望ましくない。加えて、3か所の候補地を提示してから建設地が選定されるまでがあまりに拙速で、説明が不足している。市政懇談会における民意なども含め、判断材料がそろわない現状においては、本基本計画策定業務を盛り込んだ補正予算案に反対せざるを得ない。

議案第94号　令和8年度男鹿市一般会計補正予算（第3号）について

表決状況（令和8年9月定例会）　（○：賛成　×：反対　議：議長）

	新星会						男鹿未来の会					明政会			本日共産党	公明党	議決結果
	鈴木元章	小野肇	太田穣	船木正博	畠山富勝	猿田真	佐々木克広	蓬田司	吉田洋平	三浦利通	夏井博子	佐藤誠	船木一人	古仲清尚	安田健次郎	進藤優子	可決
議案第94号	○	×	○	○	○	×	○	○	○	議	○	○	○	○	○	○	

※三浦利通議長は採決に加わりません。
※採決で賛否が分かれた案件を掲載しています。他の案件については、全会一致で可決されました。

男鹿市議会だより No.93
■発行：男鹿市議会　■編集：議会広報特別委員会　男鹿市船川港船川字泉台66－1　電話24－9150
E-mail: gikai@city.oga.akita.jp



自衛隊協力会基地視察



８月26日、男鹿市議会自衛隊協力会員が航空自衛隊加茂分屯基地の視察を行いました。

基地概要や航空機、装備品等の説明を受け、自衛隊への理解を深めるとともに、山頂地区の見学を行い、防衛意識の向上を図りました。





議員クラブによる交通安全啓発活動

秋の交通安全運動期間中の９月29日、交通安全に対する意識高揚と啓発を目的に、男鹿市議会議員クラブ会員が市内の教育・保育施設を訪問し、園児たちに交通事故防止を呼びかける啓発グッズを配布しました。



～まちの未来が見える～

議会傍聴においでください

※議会において長年の懸案であった「議会中継」については、
来年度中の実施に向け、市当局に対して予算化の要求をしております。

９月定例会は
傍聴者延べ30人
「次は12月定例会」

過去の会議録は、こちらから随時ご覧いただけます。

定例会会議録　会議録検索システム



12月定例会の予定

11月
24日　招集告示
　　議会運営委員会

12月
17日　予算特別委員会
　　議会運営委員会
　　本会議（表決）

12月
1日　本会議（議案上程）
3日　本会議（一般質問）
4日　本会議（一般質問）
7日　本会議（一般質問）
8日　本会議（議案質疑）
　　予算特別委員会
9日　予算特別委員会
10日　常任委員会・分科会
11日　常任委員会・分科会

お知らせ

議員は公職選挙法により、選挙区内で答礼のための自筆によるものを除き、年賀状などの挨拶状を出すことはできません。

皆様のご理解をお願いいたします。

市議会議員一同

※ナマハゲイラストの著作権は男鹿市に帰属しています。

編集後記

▼黄金色の田んぼの稲刈りも無事に終わり、たわわに実った梨の収穫も終盤戦に。男鹿の豊かな自然の恵みに、改めて感謝する日々です。

実りの秋は、本来であれば喜びの季節ですが、米価の下落が影を落とし、農家の皆様の厳しい現状と不安の声に胸が痛みます。国においては営農継続に意欲をもてるような一過性ではない実効性のある手だてを講ずるよう切に望むものです。

▼「複合交流施設」の整備に向けて活発な議論が交わされました。物事を選択する上で、最初から「絶対的な正解」が用意されているわけではありません。「選んだ道を正解にするよう行動すること」が大切なのです。

方向性を定めた今、いかにして男鹿の未来に資する「大正解」へと育てていくかが問われています。さらに議論を重ねてまいります。

（進藤　優子）